手術部位感染サーベイランス 一日米の相違点一

森兼 啓太

国立感染症研究所 感染症情報センター 主任研究官

第17回 関西感染予防ネットワーク 例会

術後感染症の種類と頻度

感染の種類	例数	
切開創感染	43	
遺残膿瘍	25	術野感染
腹膜炎	23	103例
胆道感染	12	
呼吸器感染	17	
尿路感染	13	術野外感染
敗血症	5	39例
その他	4	

由良ら、臨床外科、1987 (名古屋市立大学第一外科、1981-1984)

Surgical Site Infection (SSI)

- » アメリカ: CDC(疾病対策予防センター) が定義
- ▶ おもにサーベイランスのための概念
 - > 発生率などを比較する上で定義が必要
- **▶「手術部位感染」**が日本語の定訳
 - ×手術創感染
 - ×術野感染

アメリカ: CDCによる院内感染の定義

From: Horan TC, Gaynes RP. Surveillance of nosocomial infections. In: Hospital Epidemiology and Infection Control, Cardiovascular System Infection 3rd ed., Mayhall CG, editor. Philadelphia:Lippincott VASC Arterial or venous infection Williams & Wilkins, 2004:1659-1702. ENDO Endocarditis CARD Myocarditis or pericarditis MED Mediastinitis EENT Eye, Ear, Nose, Throat, or Mouth Infection APPENDIX A-1, CDC DEFINITIONS OF CONJ Conjunctivitis NOSOCOMIAL INFECTIONS [EXCLUDING PNEUMONIA (SEE APPENDIX A-2)] EYE Eye Other than conjunctivitis FAR Ear Mastoid Listing of Major and Specific Site Codes and ORAL Oral Cavity (mouth, tongue, or gums) Descriptions SINU Sinusitis Urinary Tract Infection Upper respiratory tract, pharyngitis, SUTI Symptomatic urinary tract infection ASB Asymptomatic bacteriuria laryngitis, epiglottitis GI Gastrointestinal System Infection OUTI Other infections of the urinary tract GE Gastroenteritis Gastrointestinal (GI) tract GIT HEP Hepatitis Surgical Site Infection SKIN Superficial incisional site, except after CBGB¹ IAB Intraabdominal, not specified elsewhere NEC Necrotizing enterocolitis SKNC After CBGB, report SKNC for superficial Lower Respiratory Tract Infection, Other Than incisional infection at chest incision site Pneumonia BRON Bronchitis, tracheobronchitis, tracheitis, SKNL After CBGB, report SKNL for superficial incisional infection at leg (donor) site Deep incisional surgical site infection, without evidence of pneumonia LUNG Other infections of the lower respiratory

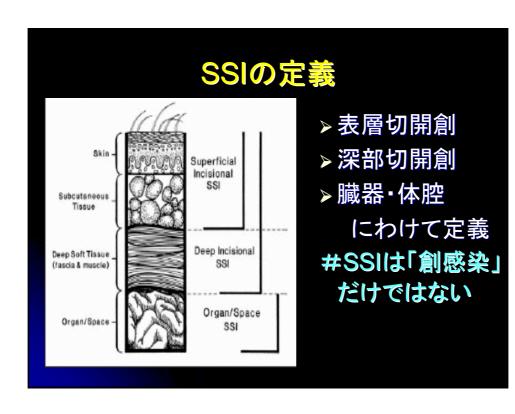
NNISマニュアル



「サーベイランスのための CDCガイドライン」 (NNISマニュアルの 日本語翻訳版)

森兼啓太、今井栄子 訳メディカ出版

ISBN 4-8404-1197-2



SSIの定義 -表層切開創-

- ▶ 感染が手術後30日以内に起こる
- > 切開創の皮膚と皮下組織に及ぶ
- > 以下のうち一つ以上にあてはまる
 - >表層切開創からの膿性排液
 - ▶表層切開創から無菌的に採取した検体からの病 原体検出
 - ▶疼痛・圧痛・腫脹・発赤・熱感があり、手術医・主 治医により創が開放され、培養陽性または未検
 - >手術医・主治医による表層切開創SSIの診断

SSIの定義 - 深部切開創-

- ▶ 感染が手術後30日以内に起こる
 - > 埋入物を置いた場合は1年以内
- ▶ 感染が手術手技に関連している
- > 深部の軟部組織(筋膜と筋層)に及ぶ
- ▶ 以下のうち一つ以上にあてはまる
 - > 深部切開創からの膿性排液
 - ▶ 自然に哆開または手術医が開放し、感染症状 (発熱or疼痛or圧痛)がある。但し切開創の培養 陰性の場合は除く
 - ▶ 当該部位の感染の証拠が、直接検索・再手術・ 組織病理検査・放射線学的検査で発見
 - ▶手術医・主治医による深部切開創SSIの診断

SSIの定義 -臓器・体腔-

- ▶感染が手術後30日以内に起こる
 - > 埋入物を置いた場合は術後1年以内
- ▶ 感染が手術手技に関連している
- >表層・深部切開創を除く術中操作部位に及ぶ
- > 以下のうち一つ以上にあてはまる
 - > 臓器・体腔のドレーンからの膿性排液
 - ≫当該部位から無菌的に採取した検体からの病原体検出
 - ≫ 当該部位の感染の証拠が、直接検索・再手術・ 組織病理検査・放射線学的検査で発見
 - ▶手術医・主治医による臓器・体腔SSIの診断

SSIの判定に困るケース				
縫合糸膿瘍	O			
ドレーンを介した逆行性感染	×			
縫合不全	O			
30日以降の皮下膿瘍	×			
一次的縫合閉鎖しない創の感染	Δ			

SSI防止ガイドライン

Vol. 20 No. 4

INFECTION CONTROL AND HOSPITAL EPIDEMIOLOGY

247

Guideline for Prevention of Surgical Site Infection, 1999

Alicia J. Mangram, MD; Teresa C. Horan, MPH, CIC; Michele L. Pearson, MD; Leah Christine Silver, BS; William R. Jarvis, MD; The Hospital Infection Control Practices Advisory Committee

Hospital Infections Program National Center for Infectious Diseases Centers for Disease Control and Prevention Public Health Service US Department of Health and Human Services

SSI防止ガイドラインの存在 ベストプラクティスの実践 効果を上げているのか? SSI発生率などのデータが必要

SSIサーベイランス

SSI発生症例数 = SSI発生率 対象手術数

> その他の情報を含めて 現場にフィードバック

現場では対策を立案・実施

究極的にはSSI発生率を低下

家計簿とサーベイランス

家計簿

- > 収入、支出を記録 > データ収集
- ▶ 収支バランス
- > 結果の評価
- > 支出削減を立案 > 対策立案
- > 家計の改善

サーベイランス

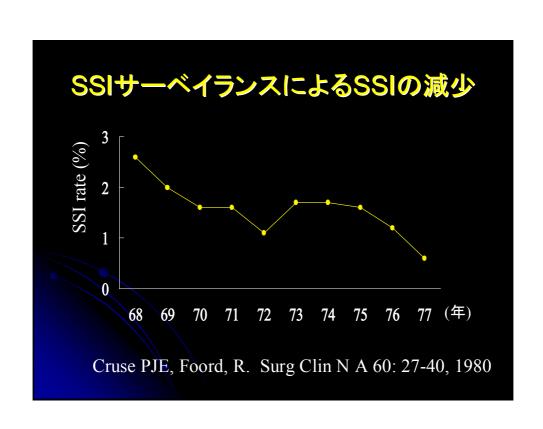
- ▶解析
- ▶ 家族会議で報告 ▶ スタッフ会議で報告
 - ▶ 結果の評価

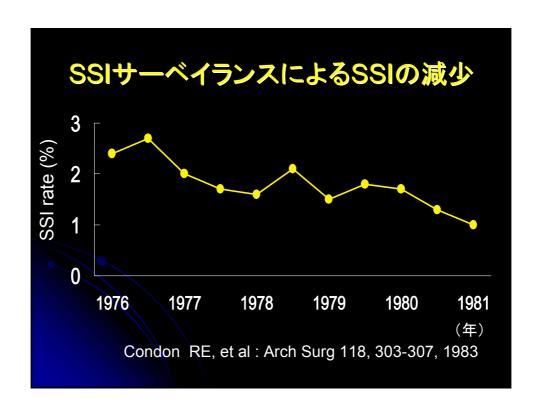
 - ▶ 感染率の低下

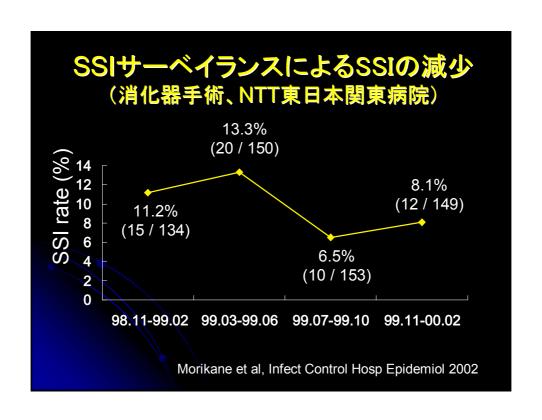
データを集めただけでは不十分

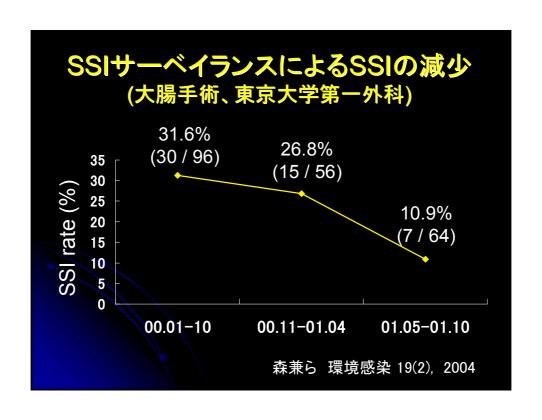
SSIサーベイランス (SSI防止ガイドラインより)

- SSIに関するCDCの定義を変えることなく使用し、SSIを同定する IB
- ▶ 手術患者の入院中は継続して直接的・間接 的な観察を行う IB
- ▶必要なデータを収集し、手術手技毎・リスクインデックス毎の感染率を算出する IB
- ▶ 手術医チームへ結果をフィードバックする IB
- ▶ 手術医ごとのデータを提示する勧告はなし













NNISシステム

- ➤ CDCが構築した院内感染に関するデータ収集・解析システム
- ▶ SSIの他に血流感染、尿路感染などを対象
- ▶ 1970年に開始、現在300施設以上が参加
- ▶膨大なデータベース
 >SSIだけで年間数十万症例
- ➤ 多くの国がNNISシステムを採用して国家的 サーベイランスシステムを構築しつつある

NNISマニュアル



「サーベイランスのための CDCガイドライン」 (NNISマニュアルの 日本語翻訳版)

森兼啓太、今井栄子 訳メディカ出版

ISBN 4-8404-1197-2

NNISシステムに沿った SSIサーベイランスの手順の概略

- >調査対象手術を決定(胃手術、大腸手術など)
- > 分母データの収集
- ▶ 術後30日間の手術部位(全身状態)観察
 ▶ 一部、術後1年間要フォロー
- ▶SSI発生の有無を判定
- > SSI発生率などの解析を実施

NNISの手術分類:手術手技

- » NNIS手術手技に含まれるための基準
 - > 入院患者
 - ▶ 手術室で皮膚・粘膜を切開し、手術を行なって 皮膚・粘膜を縫合したもの
- > 胃手術、大腸手術、開心術などおおまかな 分類
- > GAST, COLO, CARDなどとコード化
- » ICD9-CMに基づいて決定

手術手技分類に困るケース				
胃•空腸吻合	GAST			
胆管•空腸吻合	BILI			
小腸•S状結腸吻合	COLO			
内痔核	×			

SSIサーベイランスで収集するデータ

- ▶ 手術手技別の発生率だけを見るためには
 - ▶手術手技別の手術件数とSSI発生数
- ▶リスク階層化した解析をするためには
 - > 各手術ごとにリスク因子に関するデータ
 - ▶「分母データ」

NNISの手法はこちら

NNISで収集する分母データ

- ▶患者ID、年齡、性、手術日
- ▶手術手技
- > 手術時間
- ▶創分類
- » ASAスコア(術前全身状態の分類)
- > 腹腔鏡使用の有無
- > 合併手術·外傷·緊急手術の有無など

NNISで収集する分子データ (SSI発生時に集めるデータ)

- > 感染診断日
- > 感染特定部位
- > 分離された病原体
- > 診断時期
- 二次的血流感染の有無
- > 死亡の有無、死亡とSSIの関連の有無

All Cspecial article

National Nosocomial Infections Surveillance (NNIS) System Report, data summary from January 1992 through June 2004, issued October 2004

A report from the NNIS System*

Division of Healthcare Quality Promotion, National Center for Infectious Diseases, Centers for Disease Control and Prevention, Public Health Service, US Department of Health and Human Services Atlanta, Georgia

This report is a summary of the data collected and reported by hospitals participating in the National Nosocomial Infections Surveillance (NNIS) System from January 1992 through June 2004 and updates previously published data. 1-4

The NNIS System was established in 1970 when selected hospitals in the United States routinely began reporting their nosocomial infection surveillance data for aggregation into a national database. Hospitals participating in the NNIS System provide general medical-surgical inpatient services to adults or chil-

ICUs, as well as ICU-specific denominator data. Sitespecific infection rates can be calculated by using as a denominator the number of patients at risk, patientdays, and days of indwelling urinary catheterization, central vascular cannulation (central line), or ventilation.

HRN SURVEILLANCE COMPONENT

ICPs collect data on all sites of nosocomial infection in patients located in HRN, and HRN-specific denominator data. Site-specific infection rates can be calculated by using as a denominator the number of

NNISで収集する分母(基礎)データ

- ▶患者ID、年齡、性、手術日
- ▶手術手技
- ▶手術時間
- ▶創分類
- ▶ 術前全身状態分類(ASAスコア)
- ▶腹腔鏡使用の有無
- ▶ 合併手術・外傷・緊急手術の有無など

NNIS SSIリスクインデックス

474 Vol. 32 No. 8

Table 5. SSI rates*, by operative procedure and risk index cate 2004

Operative procedure category		Duration cut point (h)	Risk index category	N	Rate c
CARD	Cardiac	5	0	2147	0.70
CBGB	CABG-chest and donor site	5	0	2718	1.25
CBGC	CABG-chest only	4	0	160	0.00
OCVS	Other cardiovascular	2	0,1	11,233	0.60
ORES	Other respiratory	2	0,1,2,3	1728	2.43
THOR	Thoracic	3	0	1423	0.42
APPY	See Table 7				
BILI	Liver/pancreas	5	0	482	3.11
CHOL	See Table 7				
0010	C T11 7				

16

創分類(Wound Class)

- ➤ Clean (Class I)
 - > 完全な清潔手術 心血管・整形外科手術
- > Clean-contaminated (Class II)
 - ▶準清潔手術 胃切除、腸切除、胆摘、肝切除
- > Contaminated (Class III)
 - > 清潔操作に重大な破綻、炎症が存在する手術
 - >結腸手術で縫合時便汁が漏れた、急性胆嚢炎
- Dirty/Infected (Class IV)
 - > 術前から術野に感染が存在する手術
 - > 消化管穿孔による汎発性腹膜炎

アメリカ麻酔科医学会(ASA)の 全身状態評価スコア

- ASA 1 健康な患者
- ASA 2 軽い全身疾患の患者
- ASA 3 重い全身疾患をもつが、活動できない ほどではない患者
- ASA 4 生命の危機にあり、再起不能な全身疾患の患者
- ASA 5 手術を行っても行わなくても24時間以上 生存できる見込みがない瀕死の患者

NNIS SSIリスクインデックス

- 手術時間 > T値(手術手技により異なる)
- 創分類: III (Contaminated) or IV (dirty/infected)
- ASAスコア: 3, 4, 5の場合、各々1点を付与
 - →各症例に対して、O-3点が割付けられる
- ・ 例: 開心術、3時間30分、創分類 I、ASAスコ ア3 → リスクインデックスは 0+1+0=1
- 腹腔鏡手術の場合はさらに調整

SSIサーベイランスにおける リスク因子調整 ~なぜリスク因子調整が必要か?

SSI発生率のリスク調整

- > SSI発生のリスクは患者ごとに異なる
 - ▶ 年齢、性別、併存疾患、術野の清浄度、、、、、
 - » SSI防止ガイドラインにおける、介入困難な因子
- > SSIサーベイランスにおけるリスク調整因子
 - (1) 手術臓器(手術手技)
 - (2) NNIS SSI リスクインデックス
- ➤ BSIやUTIサーベイランスでは、このような患者個々の要因に関するリスク調整はしない

NNISデータとのSSI発生率の比較

- ▶同一手術手技
- ▶ 同一リスクインデックス の患者はSSI発生のリスクが同じ
 - →その患者集団同士であれば比較可能

日本のSSIサーベイランスシステム JNIS

- > Japanese Nosocomial Infections Surveillance
 - ▶1999年に開始、主にSSIを対象
 - ▶NNISに準拠、一部手術分類を修正
 - >結腸と直腸を分離、食道を独立
 - >>50施設からデータ集積、計約30,000例
 - ▶年1回のフィードバック
 - » 術後入院期間が長い→正確なサーベイラ ンス

NNISマニュアル: JNISでも使用



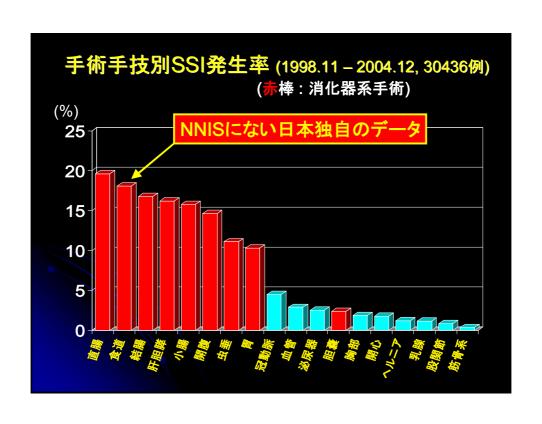
「サーベイランスのための CDCガイドライン」 (NNISマニュアルの 日本語翻訳版)

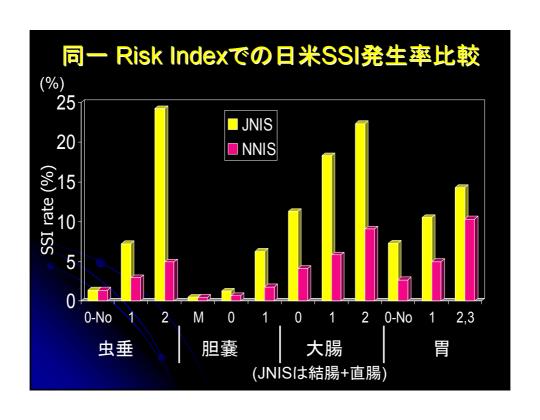
森兼啓太、今井栄子 訳メディカ出版

ISBN 4-8404-1197-2

JNISとNNIS、どこが違うか?

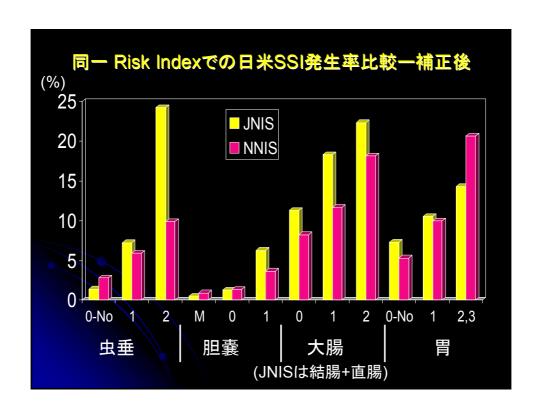
- ▶ 日本の病院はNNISに参加できない
- ▶ アメリカの病院はJNISに参加できない
- > 手術手技
 - » ICD-9-CMによる分類→日本では困難
 - ▶ 食道: NNISでは OGIT(その他の消化器手術)
 JNISでは ESOP
 - ▶ 結腸と直腸: NNISでは共に COLO JNISではそれぞれ COLN、REC
- ➤ SSI発生時のデータ: SSIの臨床診断(皮下膿瘍、縫 合不全、体腔内遺残膿瘍)

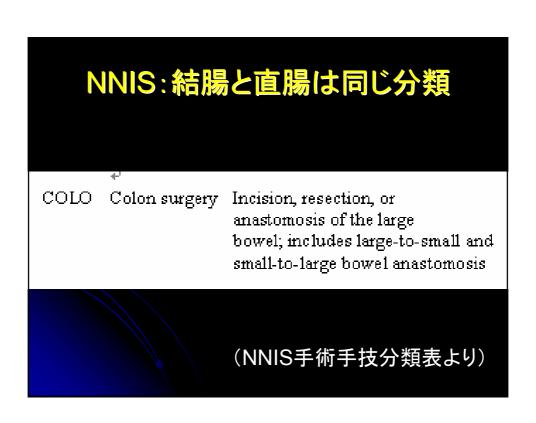


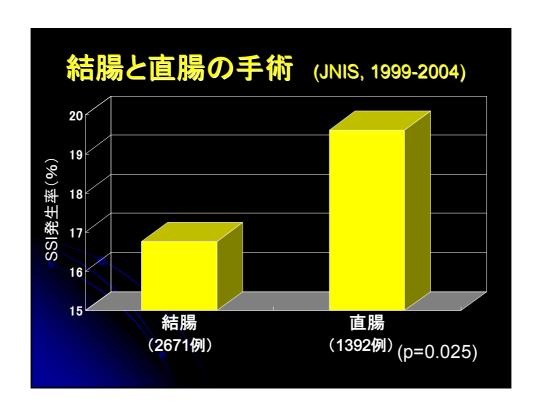


退院後サーベイランス

- ▶ 退院後に発生するSSIは全SSIの約50%
 - > Holtz TH, et al. Am J Infect Cont 1992;20:206-213
- ▶ アメリカで退院後発生のSSIをフォローするのは一般に困難
- NNISシステム:「退院後サーベイランスは要求しないが、推奨される」
- > 実際にはあまり行われていない







NNISの改訂							
COLO	Colon surgery	Incision, resection, or anastomosis of the large intestine; includes large-to-small and small-to-large bowel anastomosis; does not include rectal operations					
PVBY	Peripheral vascular bypass surgery	Bypass operations on peripheral vessels					
REC	Rectal surgery	Operations on rectum					

SSIサーベイランスの実例 ~フィードバックとSSI減少~

SSIサーベイランスの実例(1) NTT東日本関東病院

- ▶ 消化器外科の開腹手術 (含腹腔鏡手術) を対象
- ▶ 対象となる手術の終了直後にdaily sheet を発行
- ▶ 創の観察と用紙記入: 外科医・病棟看護師
- ▶基礎データ:感染制御チーム(検査部部長、 外科医師、看護師、臨床検査技師、薬剤 師)が収集
- ▶ 週1度の病棟ラウンド

手術	部位感	染サ	ーベ	イラン	ノス個	人シート	÷	
ID番号 患者氏名 生年月日			記入のしかた ・手術当日から退院日あるいは術後 30 日まで、下記観察項目を無益観察してください。該当項目の観察所見がある場合には、その日義初に確認した時間を記入してください。 ・該当しない項目は空欄にし、何もない場合には署名のみしてください。 ・症状を確認した無やドレーンの位置は手術運動表(コピー)の図に番号を記入し、その番号と確認時間を表中に記載してください。					
機察		創部の感染微検				署名		
機響 項目 排 排 液 別 別	疼痛	圧痛	発 赤	腫脹	熱感	横考		その他
手術当日							勤者	
術後1日目								
術後2日目								
術後3日目								

SSI判定記録用紙

患者 ID card, 医師 card を inprint してください。

手術部位感染判定記載用紙(関東病院外科)。

Version 1.1 prepared on 5/15/00 by Keita Morikane.

この criteria sheet の使用法

まず、感染がありそうだと判断しましたら、感染の深さを判断して下さい。皮膚または皮下組織なら(1)表層感染(SSI-SKIN)、fascia より深い腹壁なら(2)深部感染(SSI-ST)、腹腔内などは(3)臓器/体腔感染 (SSI-(Specific site of organ/space))の項へ進んでください。+

CDC による手術部位感染の診断基準。

(1)表層感染(SSI-SKIN)。

次の(a), (b), (c)3つをすべて満たしたとき。

(a)術後30 日以内に発生すること。

(b)手術創の皮膚または皮下組織のみに感染が起こっていること。

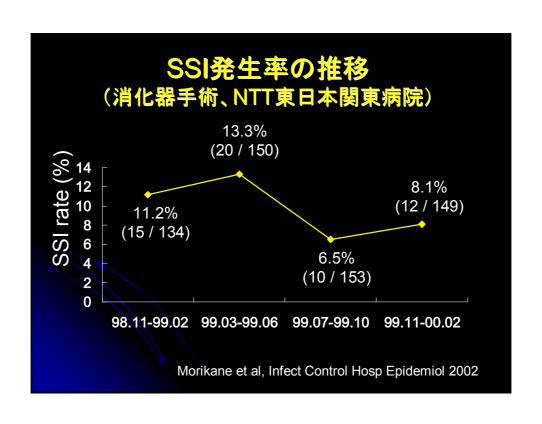
(c)次のうち最低一つ+

(c-1) 表層創からの膿性浸出(細菌学的検査は不要)。

(c-2) 表層創から無菌的に得られた液または組織の培養から細菌が検出されること。

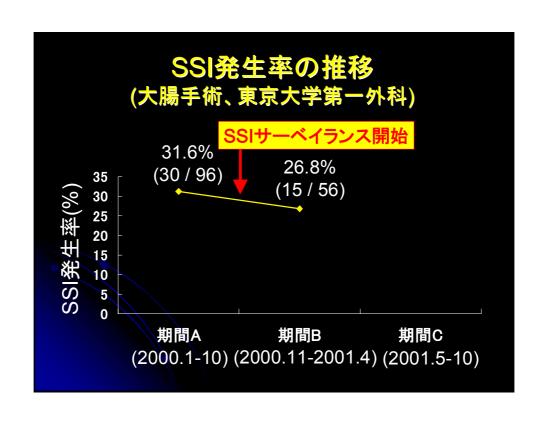
NTT東日本関東病院における SSIサーベイランスの概要(2)

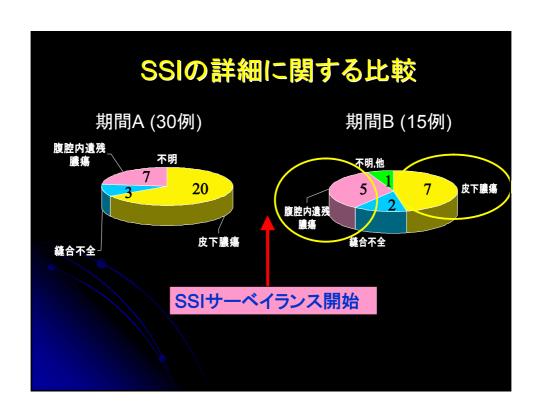
- ▶ SSIの判定: CDCの判定基準に従い、外 科医とICPが施行
- ▶ フィードバック(1) 3~4ヶ月ごとにSSI発 生率を外科医局カンファレンスで報告
- ▶フィードバック(2) 毎月の消化器外科医 局会で、SSI発生症例全例を検討(術者名 も公表)



SSIサーベイランスの実例(2) 東京大学大腸肛門外科

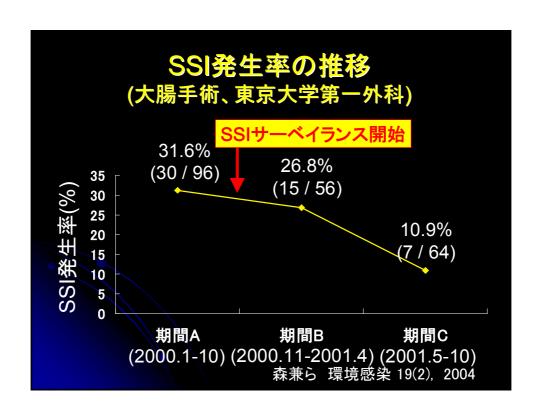
- > 大腸手術を対象
- ▶ 基礎データ: 外科医による収集
- > 処置の観察、診療録の閲覧
- ➤ SSI判定:外科医が施行
- ▶ 6ヶ月ごとのフィードバック
 - ▶発生率、標準化感染比、SSIの内容

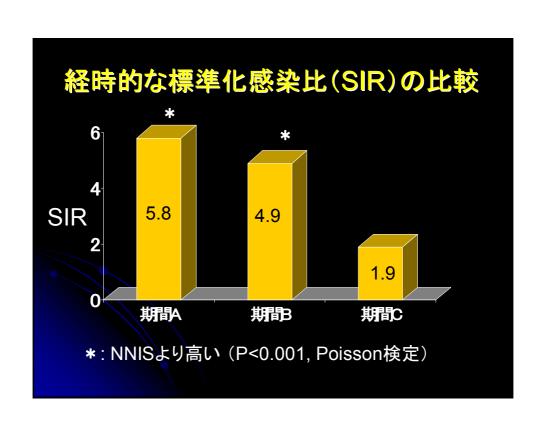




対策立案

- ▶皮下膿瘍を減らすには?
 - ▶皮膚縫合前に皮下を熱心に洗浄
- >腹腔内遺残膿瘍を減らすには?
 - ▶腹腔内洗浄量の増加
- トその他
 - ▶予防的抗菌薬の3時間ごとの投与を徹底





SSIサーベイランスの効果

- ▶ SSIサーベイランスによる監視効果
- > SSIの減少に向けた対策立案のための資料
- ▶ 対策が実行された結果、SSI発生率が低下

フィードバックが重要

これからSSIサーベイランスを開始 されようと考えておられる方々へ、、

- ▶ 自施設でどの手術(科)に問題がありそうかを 明らかにする
 - > 初めは狭く、徐々に範囲を拡大
- ▶ 当該科以外(ICTなど)が主体となってSSI サーベイランスを行なう場合は、以下の協力 を得られる体制を確保
 - ▶ サーベイランス対象患者に対する日々の観察
 - ▶ 当該科の医師によるSSIの判定

JNISに沿ったSSIサーベイランスを 行なうには、、、

SSIサーベイランス研究会へ御入会下さい

事務局 : 針原 康 先生 NTT東日本関東病院外科 〒141-8625 東京都品川区東五反田5-9-22